

令和8年度第1回島根県老人福祉計画・介護保険事業支援計画策定委員会概要

日 時	令和8年6月15日（月） 14:00～16:00
場 所	ホテル白鳥 朱鷺の間
出席者	別添 名簿・席次のとおり
概 要	◆島根県健康福祉部 谷口医療統括監あいさつ 平素から本県行政の推進について、格別のご理解とご協力をいただきお礼申し上げます。介護保険の法改正もまだ途中であり、厚労省からの情報も未だに出ていない部分もあるが、年度内には計画を策定する必要があるので、それに向けて本日から走り出す形となる。 本計画は3年ごとに区切った計画とはなっているが、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年に向けた長期展望がある。今後、中長期的には県内の多くの地域で高齢者数が減少し、介護サービスの需要も減少すると見込まれているほか、介護人材不足という課題もある。県としては課題を乗り越えられるような計画を策定したいと考えている。 ◆議題1 「委員長、副委員長の選任」 ※事務局から、委員長に川越委員を、副委員長に櫻井委員の選任を提案 ※異議なしにより承認 ◆議題2 「高齢者人口及び介護サービス需要等の現状と将来見通し」 （資料1） ※資料により事務局説明 ◆議題3 「国の制度見直しの動向」 （資料2） ※資料により事務局説明 ◆議題4 「第10期計画策定に係る基本的な考え方」 （資料3、4） ※資料により事務局説明 ◆議題5 「第9期計画の評価と第10期計画における取組みの方向性」 （資料5） ※資料により事務局説明 ◆議題6 「今後のスケジュール想定」 （資料6） ※資料により事務局説明

◆議題7 「質疑応答・意見交換」

【川越委員】

本日の会議では、県より提供された高齢者人口や介護サービス需要等の状況、また、国の制度見直しに関する説明を踏まえたうえで、10期計画の策定に係る基本的な考え方や、6つの重点推進事項について意見交換を行う。

【櫻井委員】

介護サービスの需要減少が大きな課題であると考えている。特に居住系サービス（有料・サ高住）の急増が目立ち、それに伴う施設稼働率の低下とのバランスが求められる。市町村のデータ分析能力にはまだ十分とは言い難い点もあり、今回の10期計画にはこうした現実を反映させる必要がある。

【小林委員】

要介護者数は今後増加傾向にある一方で、介護労働人口は減少が見込まれている。これによって介護難民が生じることなく、すべての方が安心して介護サービスを受けられる体制の整備が進んでいるか疑問が残るところ。

【加藤委員】

介護サービスの不足は絶対に作ってはならない。人材確保は非常に困難であり、特に外国人介護人材は確保できても定着が大きな課題だ。広島県でも人材の流出が起きているという話を聞いているが島根県でも同様の状況なのか。

【事務局】

外国人介護人材の定着は大きな課題と認識している。県の修学資金貸付制度で就労継続者の返還免除を行っているが、近年では返還免除者が減少し県外流出も増加傾向にある。昨年度から対策を検討するためのワーキングチームを設置しているが、難しい課題。引き続きご意見をいただきたい。

【加藤委員】

広島県では金銭的支援も行っているが効果は限定的。外国人に限らず介護人材全体の流出防止策を検討する必要がある。

【前田委員】

中山間地域でも外国人介護人材が流出している。公共交通機関がなく、自転車で遠方から通勤しており、買い物も不便。行政による環境整備や支援が必要。

【手銭委員】

島根県の労働人口は約5万4000人減少する見込みであり、外国人労働者の確保は重要。公共交通機関が不便だと、歩きや自転車でしか移動ができず、行動範囲が限られるので、行政の支援が必要。職場とアパートの往復だけの生活にならないよう、コミュニティの形成も必要。また出雲市では介護職員の定着に向けた助成金支援の制度が創設された。こうした制度を広げていくのも良い。

【池田委員】

看護人材も減少していて、特に県西部はほとんど看護職員が配置されていない。また訪問看護ステーションは利用者が少なく経営が難しい。施設の再編や大規模化に関する行政の評価基準や支援が明確になると現場も対応しやすくなる。

【高橋委員】

中山間地域では看護職員の減少のため県の支援により他県から看護師を招いたことがある。県西部においては訪問看護師の人材不足の影響で遠方まで移動しなければならず、勤務時間の約 2 時間を運転に費やしているケースもある。利用者の多疾患化により薬の管理や栄養指導を行うなども重要で、訪問介護は介護予防の役割も担っている。人材不足の中で ICT の活用も進めているところ。

【岡田委員】

ケアマネージャーも人材不足であり、ベテランの引退が進んでいる。今年度は 50～60 名の会員が減少した。特に中山間地域では後継者不足が進んでいるため、資格を持っている潜在的ケアマネージャーの復帰促進をしていきたい。また埼玉県で起きたケアマネージャーの殺人事件やシャドーワーク等によるイメージの悪化が広がっており、安心して働きやすい環境を作ることが重要。

【前田委員】

歯科衛生士の人材不足も全国的に進んでいて、今年の県内の育成校の入学者は定員の約 4 分の 1 程度。育成校の卒業生も県内で不足しているが、学生が減少しているのは深刻な問題。在宅の口腔管理に関わる歯科衛生士が不足しているが、診療所も人材不足により在宅には出られない状況。介護現場に対しては奨学金免除等の補助があるが、歯科衛生士にはそのような支援が少ないため支援を検討いただきたい。

【黒松委員】

認知症患者の増加に対する対策が遅れている。生活支援の方も最初はデイサービスに通うが、認知症が進行し最終的には介護保険を使うようになる。市町村は本人交流会とデイサービスの違いを明確にし、中身を精査してほしい。

ヘルパーの高齢化が進んでおり、60 歳以上の職員も多い。

中山間地では移動に係るガソリン代の支援が必要だが、「中山間地」の定義が国・県・市町村でまちまちではないか。

【横山委員】

松江市でも中山間地域がある。中山間地域では公共交通機関がないため、通院や買い物のために家族が仕事を休み送迎したりタクシーを使用したりしている。市のタクシー券支援では足りない。地域で協力する必要があるが高齢者ばかり。また家族間の疎遠化が進んでいる。一人暮らしの高齢者の今後の支援が課題。

【小林委員】

計画の総合目標である「誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現」には、家族の役割が非常に重要。介護をする人へのケアにも力を入れていただきたい。

【伊藤委員】

老人クラブも会員が大幅に減ってきている。特に中山間地域ではほとんど活動ができていない。免許証を返納すると、買い物や集まりに行くための交通手段がなくなり、活動が制約されるという課題がある。

【川越委員】

県は課題の優先順位を明確にし、どういった支援が必要か、しっかりと現場の声を聞きながら計画に反映させてほしい。

【加藤委員】

中山間地域における移動手段の確保は大きな課題。これが原因で、他地域や他業種との競争において不利になっているため、自動運転を導入するなど、先進的に取り組んでほしい。

また、通信設備を使用しないスターリンクを段階的に導入するなど、通信手段の確保についても進めてほしい。

◆島根県健康福祉部 糸賀次長あいさつ

本日は第1回計画策定委員会に多数ご出席いただき、感謝申し上げます。人口減少や少子高齢化の進展により、介護難民や「保険はあってもサービスがない」といった懸念も聞いている。県としては、介護のみならず福祉サービス全般の維持を重要課題と認識し、市町村や保険者、関係機関と連携しながら課題を共有し計画策定を進めていく。今後は国の基本指針案を確認し、検討すべき事項を整理したうえで第2回委員会に報告する予定。

以上